

「楼英学園物語」(ゲーミング・シミュレーション型教材)を用いた 教育実践と評価-3

●実施時期：2014年3月

●対象者：高校生4名

●教育プログラムの概要：

- (1) 「楼英学園物語」(ゲーミング・シミュレーション教材)の概要を説明した後、1人1台のPCを使用して各自のペースで体験
- (2) 体験後、ワークシートに「楼英学園物語」自体に対する評価(内容、操作性など)と、今後気をつけようと思ったことなどを記入
- (3) 全体での「楼英学園物語」のふりかえりとまとめ

●実践の結果

・教材「楼英学園物語」(ゲーミング・シミュレーション教材)に対する評価

①教材全体の感想について

- ・この物語の設定が今の学生にとってとても身近な内容だったので、登場人物一人ひとりの気持ちに入り込みやすかったのがよかった
- ・登場人物のキャラクターが自分の周りにいそうな人が多く、どう対応すべきか共感できた
- ・ストーリー全体が自然な感じだったので、日常生活の中にネットの危険があるということが分かりやすくてよかった
- ・些細なことから、自分の個人情報の漏えいにつながるということが実感できた
- ・SNSの問題点について考えずに利用し始める人が多いと思うので、あらかじめこのような教材で学ぶことができるのはよいと思った
- ・ネット上の書き込みから、関係のない人まで悪口を言いだしたところがリアルで怖かった
- ・このようなことが自分の子どもに起こっていることを知らない親も多いので、親にも知ってほしいと思った

②教材の操作や内容について

- ・操作方法がシンプルで分かりやすかった
- ・会話をしている人以外がモノクロになったのが分かりやすかった
- ・BGMがストーリーに合っていた

- ・音声が聞き取りやすかった
 - ・次の画面に進むのが早いところがあった
 - ・ストーリーがリアルな感じでよかった
 - ・登場人物が多くて、はじめは人物特定が難しかった
- ・ どのような行動ができたかについて
 - ・ 友だちを避けたりする人が出てくる前に間に入り、場をおさめられるようにする
 - ・ 相手を否定せずに和解を促すような話をする
 - ・ アリサが書き込みをする前に、何かおかしいと思ったそのときにアリサやトモミの話を聞くべきだったと思う
 - ・ 自分とは違うグループであっても、状況を知っていたので間に立つべきだった
 - ・ アリサに直接話をすればよかった
 - ・ 相手に嫌われてでも早いうちにやめさせなければならなかった
 - ・ 一人でいる被害者の話を聞く
- ・ 今後気をつけようと思ったこと
- ① 早期の対応や対応方法について
 - ・ ネット上に書き込みをしている人がいたら、すぐにやめさせる努力をしなければならなかった
 - ・ ネット上の知らない人に相談するのではなく、身近な大人に相談する必要があることが分かった
 - ② 加害側への同調（追従加害）について
 - ・ 悪口を言う友だちに簡単に同意してしまわないようにするべきだと思った
 - ③ コミュニケーションについて
 - ・ 他人のトラブルに介入する際、さらなるトラブルに発展しないよう、直接話そうと思った
 - ・ 遅刻をしたときなど、自分が間違っていたと気づいたときは、まずは謝らなければいけないと思った
 - ・ 相手が話している途中で自慢話を始めるのは嫌われると思った
 - ④ インターネットの安全利用等を含むコミュニケーションについて
 - ・ 個人情報をネットに載せるときには注意が必要だと思った
 - ・ SNS に書き込みをするときは、個人情報が特定される内容かどうかを考えてから投稿しようと思った

- 今後 SNS を利用するときには、個人情報の書き込みなどは特に、公開されることを忘れずに注意深く書き込みたいと思った
- 書き込みから大きなトラブルに発展するのは怖いと思った。自分の過去の言動が未来の自分の可能性を壊すことのないように、意識して生活していきたいと思った